本郷～お茶の水探訪

本郷三丁目駅からお茶の水駅まで散策しました

１５年以上前（東大病院の現場に通っていた頃）とは違って超モダンな本郷三丁目駅となっていました

駅からすぐの本郷通り交差点のそばに当時は気が付かなかった「本郷薬師」なるものがありました

右手は「機山館」というビジネスホテル（当時宿直で泊まったこともある）

これが「本郷薬師」

本郷薬師

（本郷四の二と三七の間）

この地は、真光寺（戦災にあい世田谷に移転）の境内であった。伝えによれば、寛文十年（一六七〇年）ここに薬師堂が建立された。

当時御府内に奇病猖獗（しょうけつ）し、病にたおれる者数知れず出たためこの薬師様に祈願して病気が治まったといわれている。本来薬師如来は人間の病苦をいやし、苦悩を除く仏とされている。以来人々に深く信仰された。

「本郷夜市（よみせ）は著名なり。連夜商人露店を張る。毎月八日・十二日・二十二日は薬師の縁日なり。縁日の夜は、殊に雑踏を極むるなり……」

（新撰東京名所図絵より）

本郷薬師の縁日の夜は、植木・雑貨・骨董（こっとう）などの店が並び、飲食店もでて大へん賑やかであった。牛込神楽坂善国寺の毘沙門縁日と共に大変有名であった。御堂は戦災で焼失したが、昭和二十二年に改築され、さらに昭和五十三年に新築された。

――郷土愛をはぐくむ 文化財――

文京区教育委員会

昭和六十二年三月

さらにそのそばに「櫻木神社」なるものもありました

大天神

これが拝殿

上貫谷町会

これが本殿

そしてさらにこんなものもありました（イヤー驚きです）

十一面観世音菩薩と真光寺

本郷四丁目37

元この地にあった天台宗真光寺の観世音銅像（座像長四尺八寸）は、十一面観世音菩薩と呼ばれ地域に親しまれている。東は現本郷通り、南は現春日通りに囲まれ、少し奥まった所に真光寺はあった。真光寺は藤堂高虎によって再建された寺であり、本郷薬師堂及び十一面観世音菩薩は真光寺境内に置かれていた。

十一面観世音菩薩の蓮華座には、「六十六部供養佛　江戸神田鍛冶町　小林修理源義是作」と鋳物師の氏名が刻まれ、依頼主は「当寺第四世　大阿闍梨権大僧都　竪者法仰尚賢子具」とあり、「享保五庚子（1720）九月日」の紀年銘がある。

観世音信仰が盛んになったのは奈良時代（710～794）からである。温顔で自ら修行の傍ら、多くの衆生を教化、救済してくれるこの像に人々の信仰が集まった。十一面観世音は本来慈悲の面を基調に、時に応じ、場に従い、様々な顔を使い分け、人々を救済してくれるため、深く信仰の対象となった。

真光寺は太平洋戦争で焼失し、世田谷区給田（きゅうでん）に移転したが、この十一面観世音菩薩は罹災をまぬがれ、この地に残った。

—郷土愛をはぐくむ文化財—

文京区教育委員会　　平成16年3月

東大病院方向へ歩くとレトロな建物がある

入り口に「中央會堂」とある

いよいよ東大本郷キャンパスの弥生門

正面の高層棟が「本部棟（管理棟）」

弥生門

そしてこれが平成7年竣工の東京大学附属病院外来診療棟

スクラッチタイルの外壁

遠方にスカイツリーが見える（奥は中央診療棟、病棟と続く/ともに外来診療棟よりは後に大林組で施工している大林エリア/この病棟に天皇陛下が入院された）

外来診療棟のエントランスのファサード

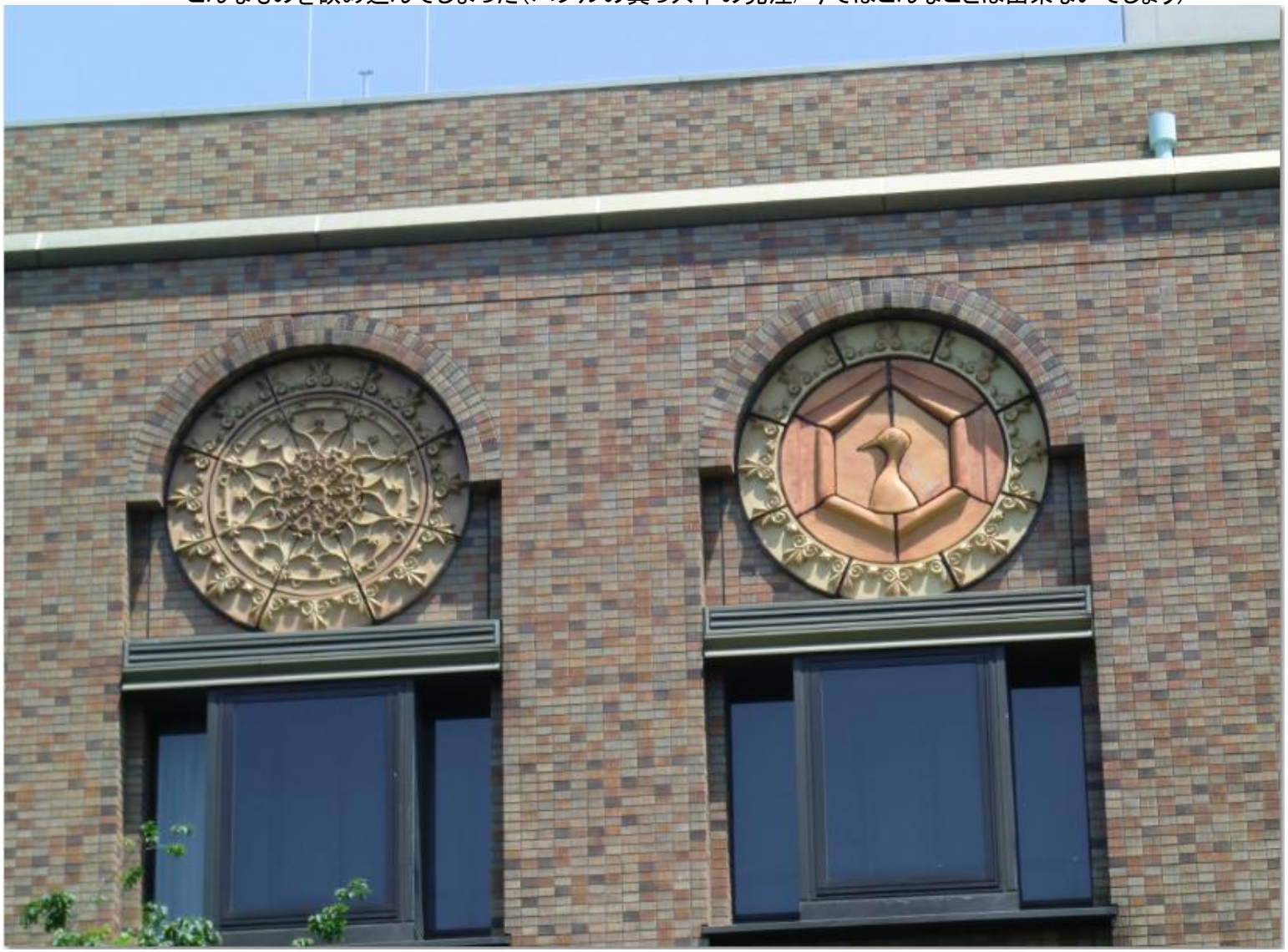
設計は「東京大学管理部」となっていたが（当時の文部省の発注）、実際は岡田新一設計事務所であった

しかし岡田新一設計事務所は全くタッチせず、専ら監理業務（図面の承諾やら検査等）は東大管理部（文部技官の人達）で何も知らない担当者達であった
（ちなみに施工図等の承諾印は工事が終わって会計検査の行なわれる直前になってやっと押していました。これが日常化しているわけで困ったことですね）

メイン構内道路面の外壁ファサード

とてつもない大きさのテラコッタが目を引く

こんなものを嵌め込んでしまった（バブルの真っ只中の発注/今ではこんなことは出来ないでしょう）



構内からこんな建物が目に入りました

何のためにこんな屋根にするのでしょうか

構内を後にして、不忍池方面に向かいます/總鎮守境稲荷社とあります

MOTUL

境稲荷神社

祭神

倉稲魂命

古来より商売繁昌家内安全の御神徳篤くまた特に当社は安産子育ての信仰も多い

祭儀

例大祭　九月二十日

歳旦祭　一月一日

朔旦祭　毎月一日

大祓　六月二十九日　十二月二十九日

由緒

文明年間足利九代将軍義尚公により創祀されたと伝えられ忍が岡と向が岡の境に鎮座するところから境稲荷と称され両村の総鎮守であった

寛延三年隣地岡上の松平邸より出火した火災により社殿をはじめ義尚公自筆の扁額や重宝古記録とも焼失したが別当慈海によって再建された

現参道口鳥居の扁額はこの時拝殿に奉納された半井大和守筆の額字を写したものである

古歌「忍ふ岡向ふる岡の境なる神のやしろは松の下谷」

その後明治二十八年湯島切通坂鎮座の宝剣稲荷を合祀している

昭和二十年三月戦禍を受け現在の本殿拝殿鳥居並に社務所は平成五年の造営である

境内本殿裏の井戸はその昔の当社別当原泉山三光寺の名称からも非常に古くからの湧水であることが知られ江戸の地誌にも「弁慶鏡ヶ井」と在り名水をもって知られている

平成5年に造営されたとのこと

昔の江戸のも銘水もありました

その付近にRC造のこんな寺院がありました/宗賢寺とあります

こういう建物を見ると大岡先生の「嘆き」が分かるような気がします

その付近にこんなものも/寺院ではないらしい

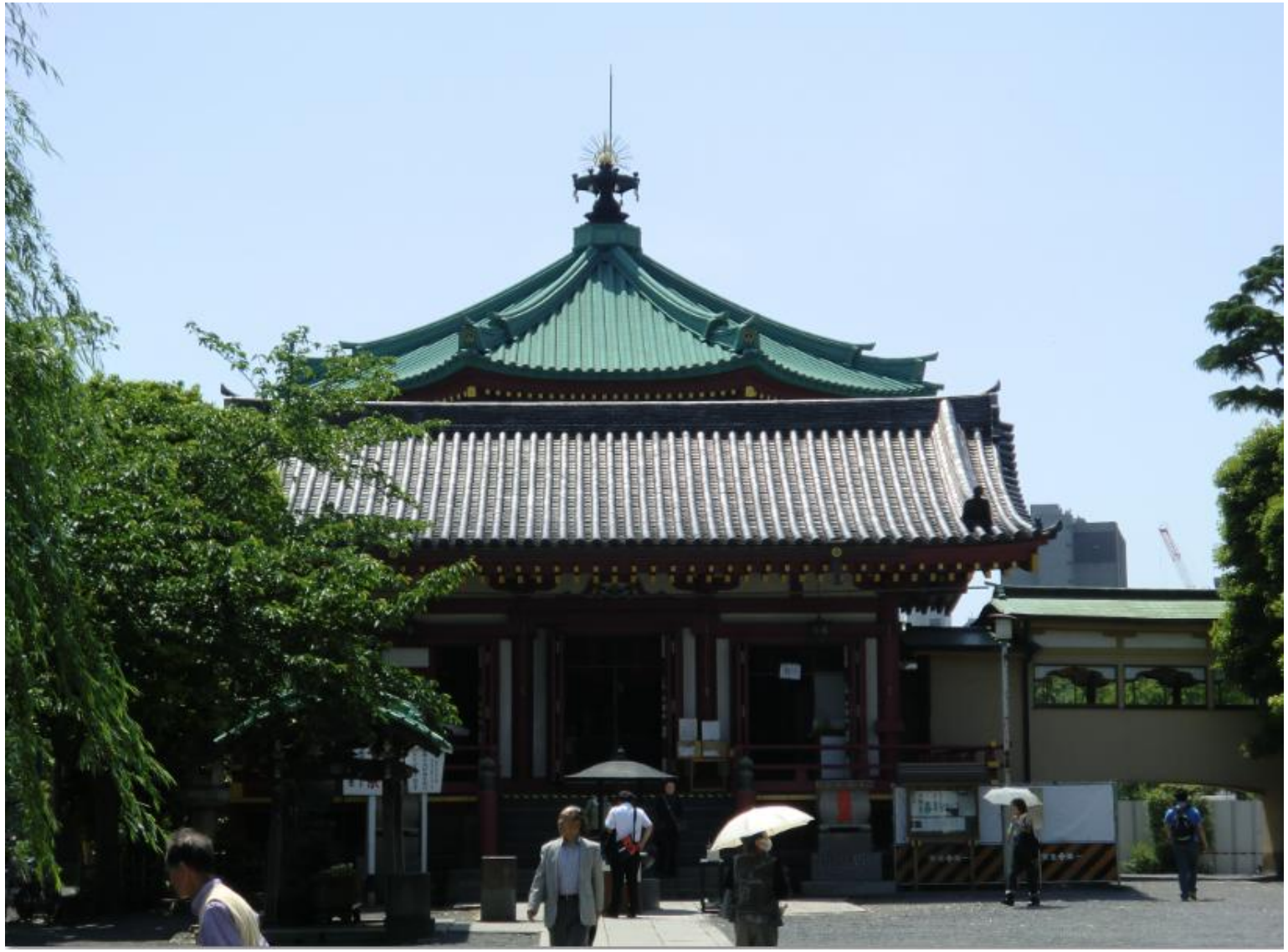
不忍池（水質の浄化が行なわれて綺麗になっている）

都会のオアシスか

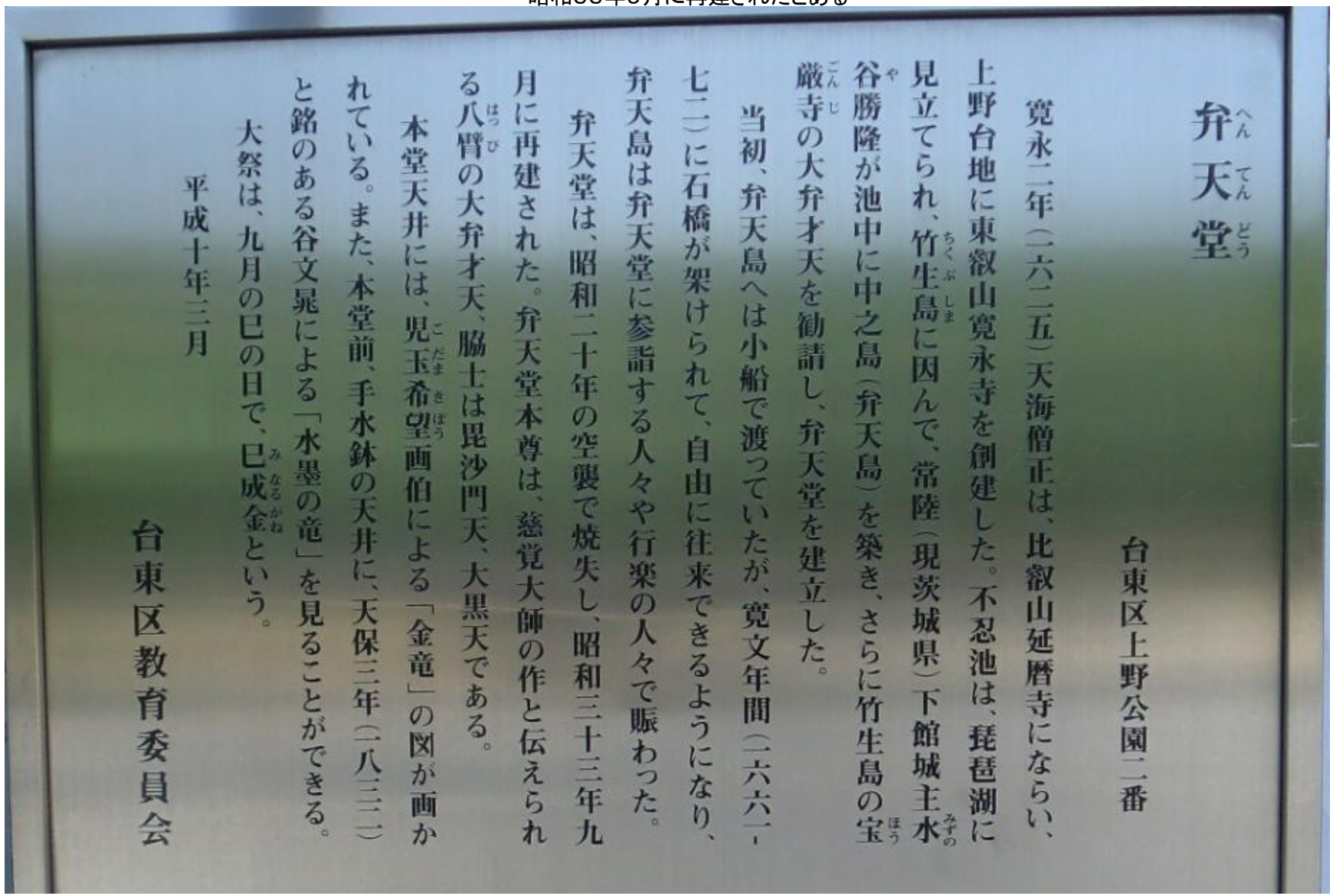
東大病院外来診療棟と同時期に大林組で建設していた建築家菊竹清訓設計の「法華倶楽部五重塔ホテル」は既に解体され高層マンションと化していた
（バブルの総決算）

これが今回の見学目的の一つ、弁天堂

RC造



昭和３３年９月に再建されたとある



弁天堂

台東区上野公園二番

寛永二年（一六二五）天海僧正は、比叡山延暦寺にならい、上野台地に東叡山寛永寺を創建した。不忍池は、琵琶湖に見立てられ、竹生島に因んで、常陸（現茨城県）下館城主水谷勝隆が池中に中之島（弁天島）を築き、さらに竹生島の宝厳寺の大弁才天を勧請し、弁天堂を建立した。

当初、弁天島へは小船で渡っていたが、寛文年間（一六六一－七二）に石橋が架けられて、自由に往来できるようになり、弁天島は弁天堂に参詣する人々や行楽の人々で賑わった。

弁天堂は、昭和二十年の空襲で焼失し、昭和三十三年九月に再建された。弁天堂本尊は、慈覚大師の作と伝えられる八臂の大弁才天、脇士は毘沙門天、大黒天である。

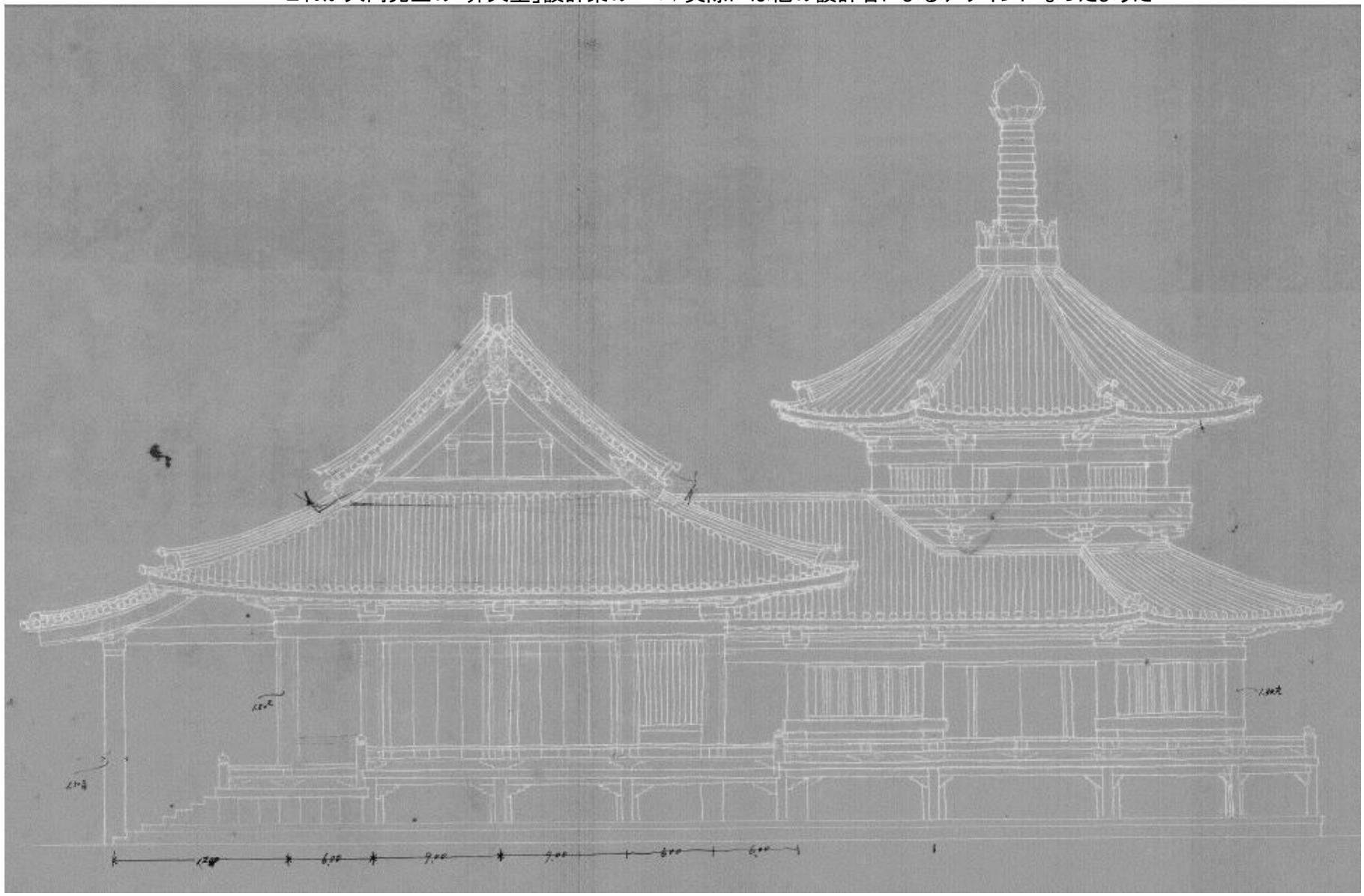
本堂天井には、児玉希望画伯による「金竜」の図が画かれている。また、本堂前、手水鉢の天井に、天保三年（一八三二）と銘のある谷文晁による「水墨の竜」を見ることができる。

大祭は、九月の巳の日で、巳成金という。

平成十年三月

台東区教育委員会

これが大岡先生の「弁天堂」設計案の一つ/実際には他の設計者によるデザインになったようだ



隣に建つ大黒天堂/木造

弁天堂の後ろにはスカイツリーが見えた

さて次は近くの横山大観記念館

こういう文化財が残るのも東京の一つの風景です

湯島方面に少し歩くと旧岩崎邸庭園です

これが入り口

次は湯島天満宮入り口です

正面が湯島天満宮（湯島天神）

正面が拝殿

拝殿（社殿は1995年再建）

正面左が本殿

なかなかの曲線のブリッジ

社務所・参集殿

こんなものが

手前は手水舎

授与所

宝物殿

足元に墓股が

殿御宮

こういう蟇股も

左は銅鳥居

その次は神田明神

随神門

江戸総鎮守 神田明神

神田神社御由緒

御祭神
一の宮　大己貴命　おおなむちのみこと（だいこく様）
二の宮　少彦名命　すくなひこなのみこと（えびす様）
三の宮　平將門命　たいらのまさかどのみこと（まさかど様）

正式名称・神田神社。東京都心一〇八町会の総氏神様で、神田・日本橋・秋葉原・大手丸の内、そして東京の食を支える市場の発祥地の氏神様として、青果市場・魚市場の人々からもあつく崇敬されております。縁結び、商売繁昌、社運隆昌、除災厄除、病気平癒など数多くのご神徳をお持ちの神々です。

当社は、天平二年（七三〇）のご創建で、江戸東京の中で最も歴史ある神社のひとつです。はじめは現在の千代田区大手町・將門塚周辺に鎮座していましたが、徳川家康公が江戸に幕府を開き江戸城が拡張された時、江戸城から表鬼門にあたる現在の地へ遷座いたしました。それ以降、江戸時代を通じて「江戸総鎮守」として幕府から江戸庶民にいたるまで多くの人々の崇敬を受けました。さらに、明治に入り、准勅祭社・東京府社に列格し皇居・東京の守護神と仰がれ、明治天皇も親しくご参拝になられました。

境内には、日本初の本格的な鉄骨鉄筋コンクリート・総漆朱塗造の御社殿（国指定登録文化財）や、総檜造の隨神門、神札授与所・参拝者待合室・休憩所を兼ねた鳳凰殿、明神会館・資料館・石造日本一の大きさを誇るだいこく様尊像・えびす様尊像・江戸国学発祥の地碑・銭形平次の碑などがございます。縁結びのご神徳から神前結婚式も多く行なわれております。

当社の祭札・神田祭は二年に一度執り行なわれ、江戸時代には江戸城内に入り徳川将軍が上覧したため、御用祭とも天下祭とも呼ばれました。また日本三大祭、江戸三大祭のひとつにも数えられております。現在は鳳輦・神輿をはじめとする江戸時代さながらの祭礼行列が、神田・日本橋・秋葉原・大手丸の内の広大な氏子一〇八町会を巡行する「神幸祭」と、氏子の町神輿約二〇〇基が町を練り歩き、神社へ迫力ある宮入をする「神輿宮入」を中心に賑やかに行われております。

平成十九年春

神田神社社務所

正面は御神殿

左手は鳳凰殿

御神殿（昭和9年竣工/SRC造）

御神殿

資料館
受付

正面は神田明神資料館（斉館）

江戸神社

各末社

正面は祖霊社

左は御神殿、右は資料館

御神殿右側面

祭務所（左）、神楽殿（右）

手水舎

OTSUK

鳳凰殿

祭務所（左）、神楽殿（右）

神楽殿

明神会館

そして湯島聖堂（裏から）

大成殿

西廻廊（左）と杏壇門（右）

杏壇門

正面が大成殿

大成殿（昭和10年再建/設計は伊東忠太/RC造）

杏壇門を見る

東廻廊天井

東廻廊外壁

杏壇門外壁

杏壇門より水屋を見る

水屋（木造）

関東大震災ではこの水屋と入徳門が焼け残った
（この水屋の改修も松浦愛一郎・一・弘二の三人が携わったという）

入徳門（1704年建立）

昭和9年に大林組の下請けで松井組（工事担当は松浦愛一郎）が改修した（木造）

平成５年に大林組によりリニューアルされている

門德八

仰高門へ歩く

土塀も三人が携わったという

孔子銅像

仰高門（昭和１０年再建）

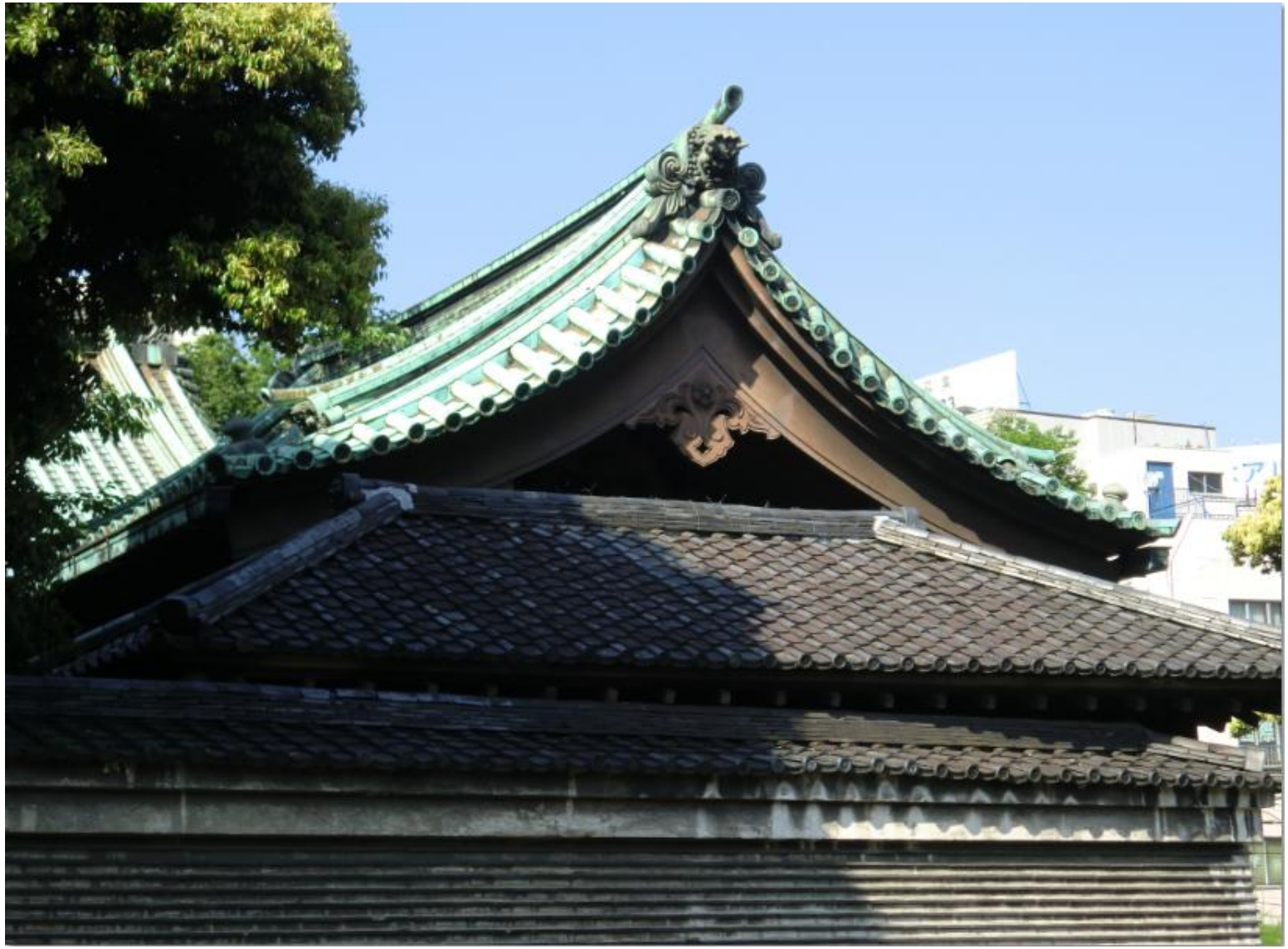
大林組の下請けで松井組が請負い、松浦愛一郎・一・弘二の三人が担当したという（松浦一が工事主任であり、初めてのRC造の建物であった）
聖堂の敷地内に仮設小屋を造って寝泊まりし再建に尽力したという

仰高

仰高

布施

南宮



武井医科 武井医科
片米アルミ
貿津消防

国際警
学
事
出
版
科

ここは史跡 湯島聖堂
YUSHIMA SEI DO

孔子廟、神農廟と昌平坂学問所跡
SHRINE OF CONFUCIUS, SHRINE OF SHINNO AND THE SITE OF SHOHEIZAKA COLLEGE

- 国の史跡指定　1922年（大正11年）3月8日
- 所　　管　文化庁・東京都教育委員会
- 管理団体　財団法人 斯文会（しぶんかい）
- 公開時間　木曜定休(祭祭) 9:30～5:00（冬は4:00）

入場は無料です。

- 所在地　東京都文京区湯島一丁目4番25号
- 敷地面積　13,915㎡

■ **湯島聖堂と孔子**　「孔子」は 2,500年ほど前 中国の魯の国（今の山東省曲阜市）昌平郷に生まれた人。その教え「儒教」は東洋の人々に大きな影響を与えました。儒学に傾倒した徳川五代将軍綱吉は、1690年（元禄3年）この地に「湯島聖堂」を創建、孔子を祀る「大成殿」や「学舎」を建て自らも「論語」の講釈を行うなど学問を奨励しました。1990年（平成2年）聖堂は創建300年を迎えています。

■ **昌平坂学問所跡**　1797年（寛政9年）幕府は学舎の敷地を拡げ、建物も改築し、孔子の生まれた地名をとって、「昌平坂学問所」（昌平黌ともいう）を開きました。学問所は、明治維新（1868年）に至るまで70年間、官立の大学として江戸時代の文教センターの役割りを果たしました。

■ **近代教育発祥の地**　明治維新により聖堂は新政府の所管となり、明治4年に文部省が置かれたほか、国立博物館（今の東京上野）、東京師範学校（今の筑波大学）、東京女子師範学校（今のお茶の水女子大学）などが置かれ、聖堂は近代教育発祥の地となったのです。

■ **現在の湯島聖堂**　もとの聖堂は、4回もの江戸大火にあって焼失、再建を繰り返し、さらに大正12年関東大震災でも焼失しました。今の建物は1935年（昭和10年）鉄筋コンクリート造りで再建したものです。ただし、入徳門は1704年（宝永元年）に建てられたものがそのまま残っており、貴重な文化財となっています。

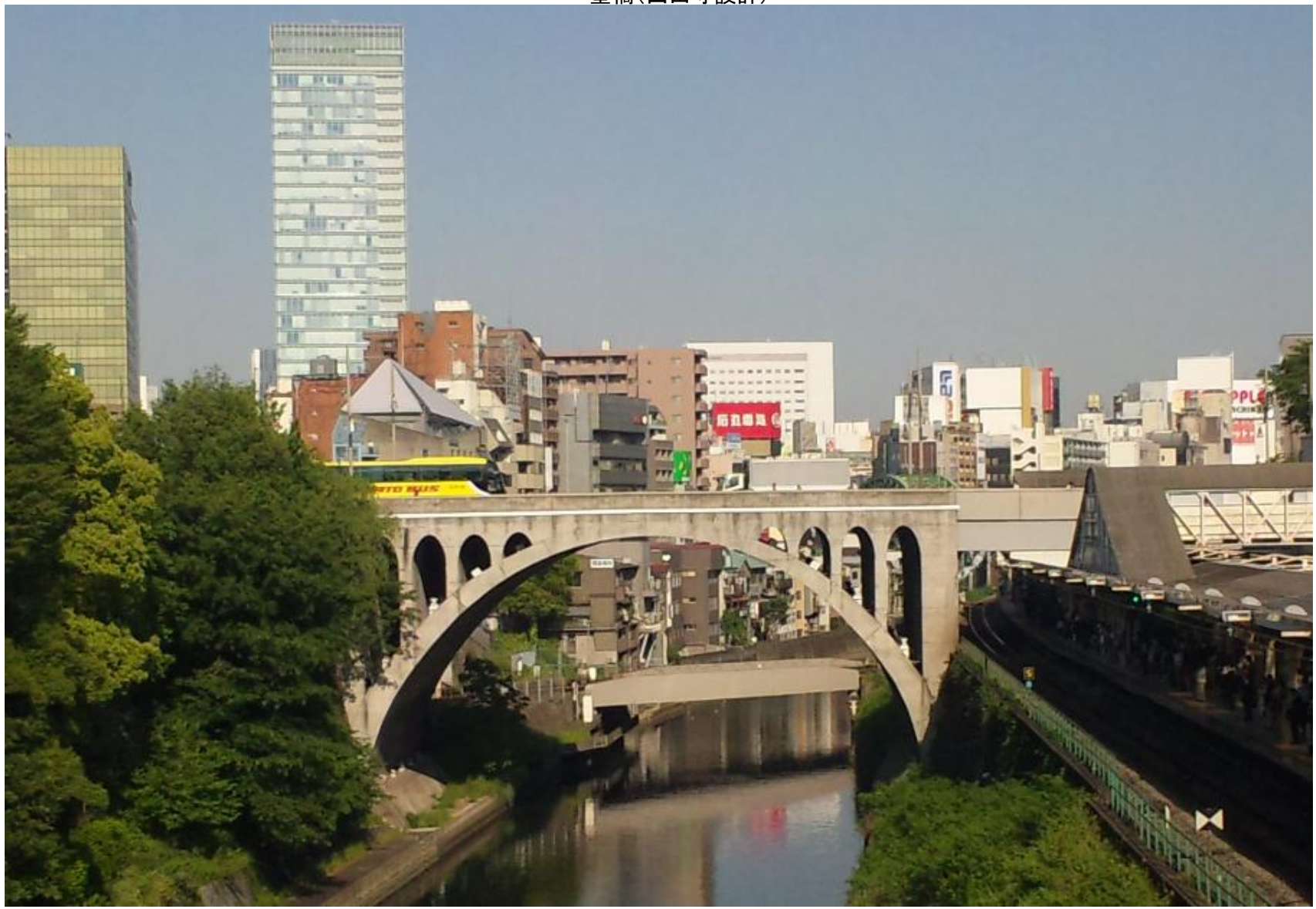
Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ の4門は毎日開かれ、どなたでも見学できます。（大成殿の内部公開は土・日・祝）。
都心に稀な静かな雰囲気、緑に包まれた石だたみや石段、唐風の門・大成殿、江戸が今に残っています。

右は斯文会館

斯文（しぶん）会館

聖橋方向へ歩く

聖橋（山田守設計）



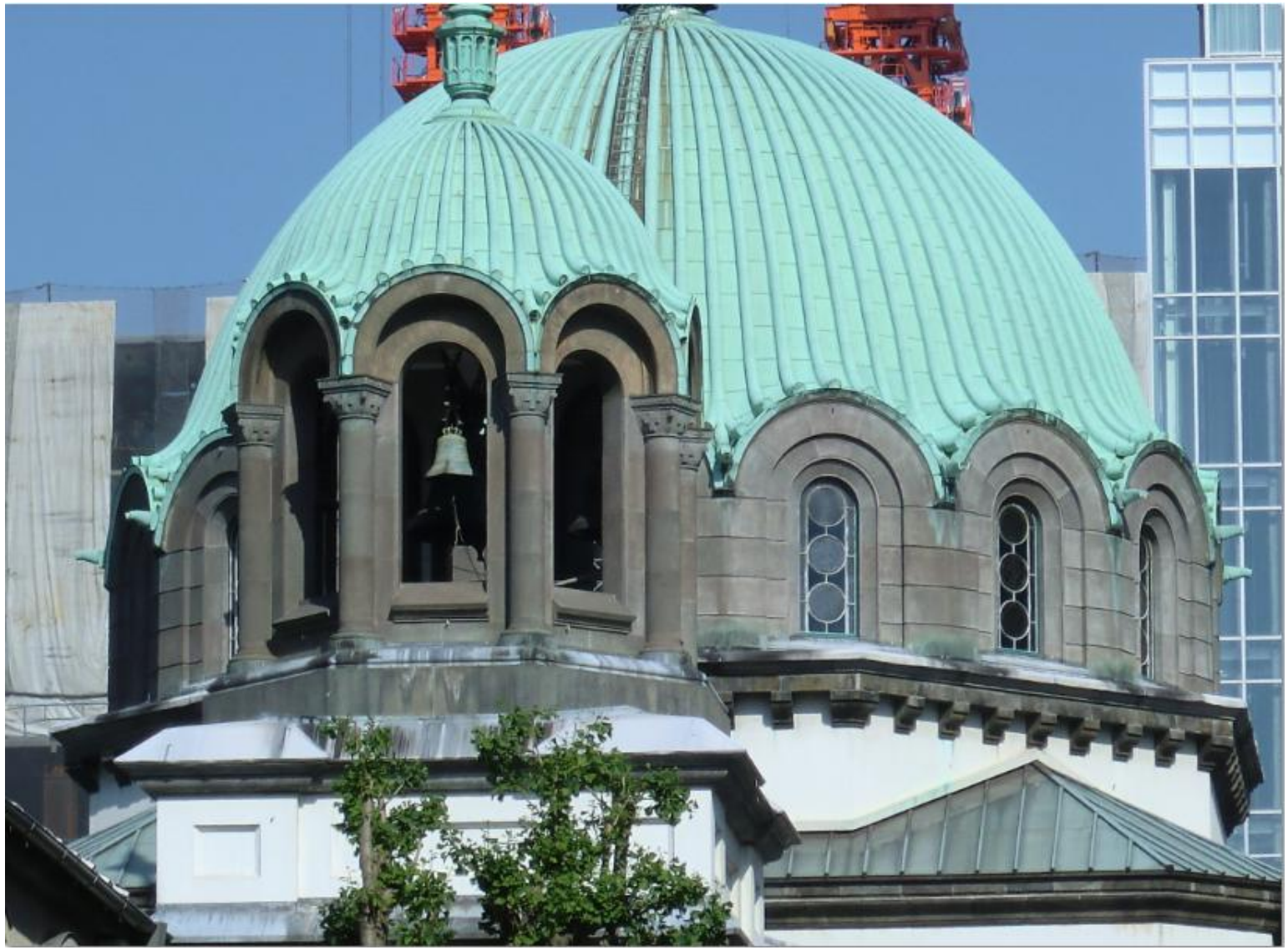
聖橋から万代橋方向を見る

いよいよニコライ堂（ジョサイア・コンドル設計）

Nikolai-doumae

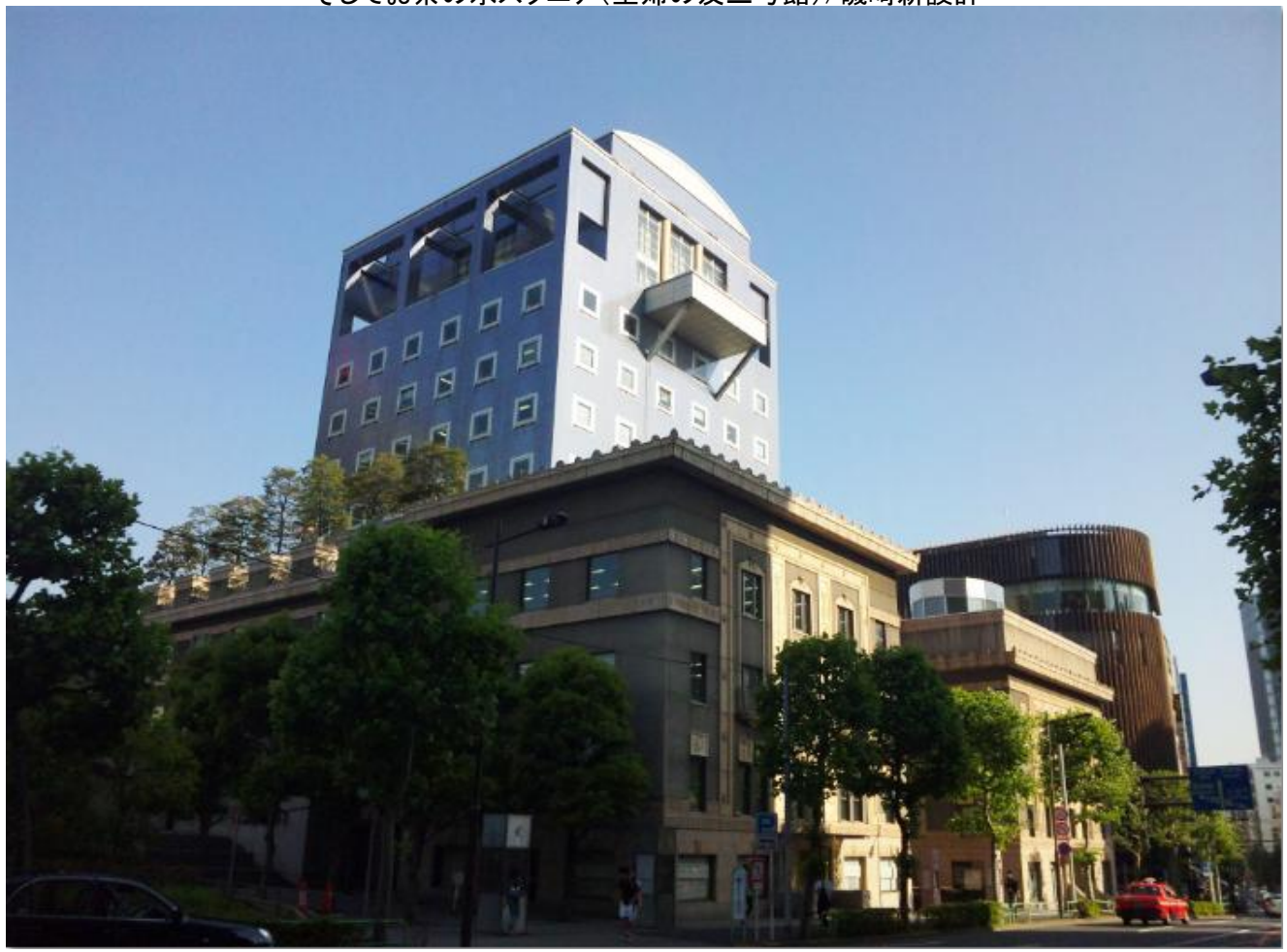
現代の建設現場との対比が面白い

ビザンチン様式



すぐ近くは日大理工学部一号館（東京建築賞受賞作）

そしてお茶の水スクエア（主婦の友三号館）/磯崎新設計



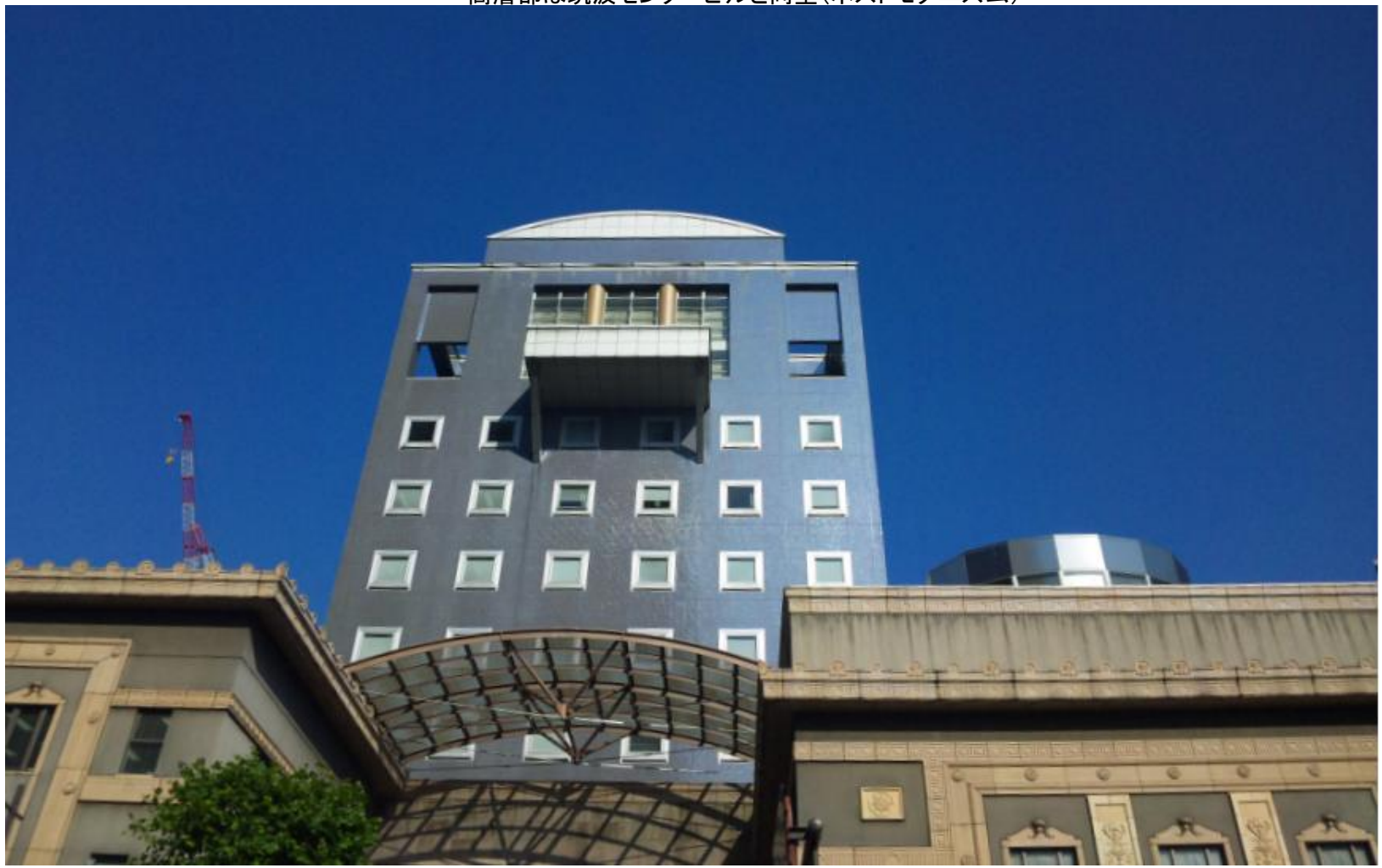
BCS賞を受賞している

両サイドはウィリアム・ヴォーリス設計の外壁復元

旧建物の解体期間も入れると二年半近くの長い工期であり、この外壁の復元も小生の担当であった

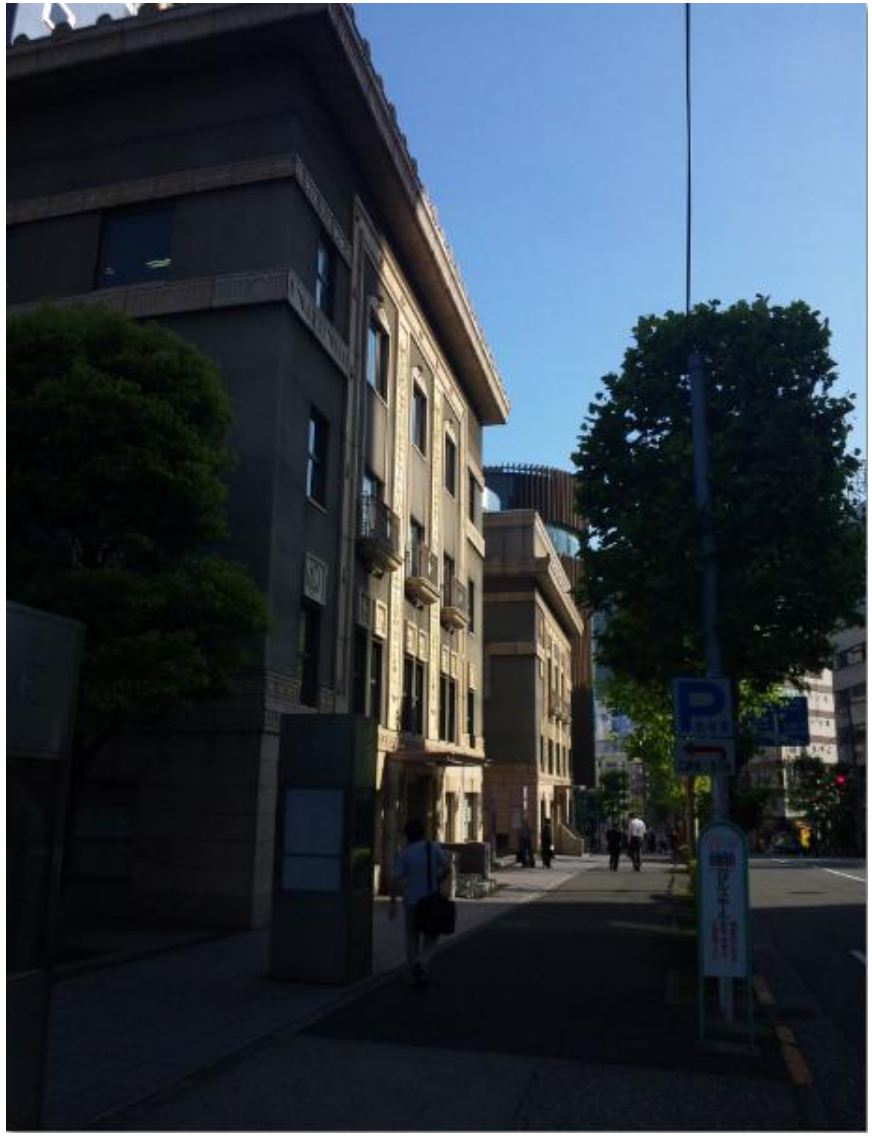
テラコッタによる装飾の復元

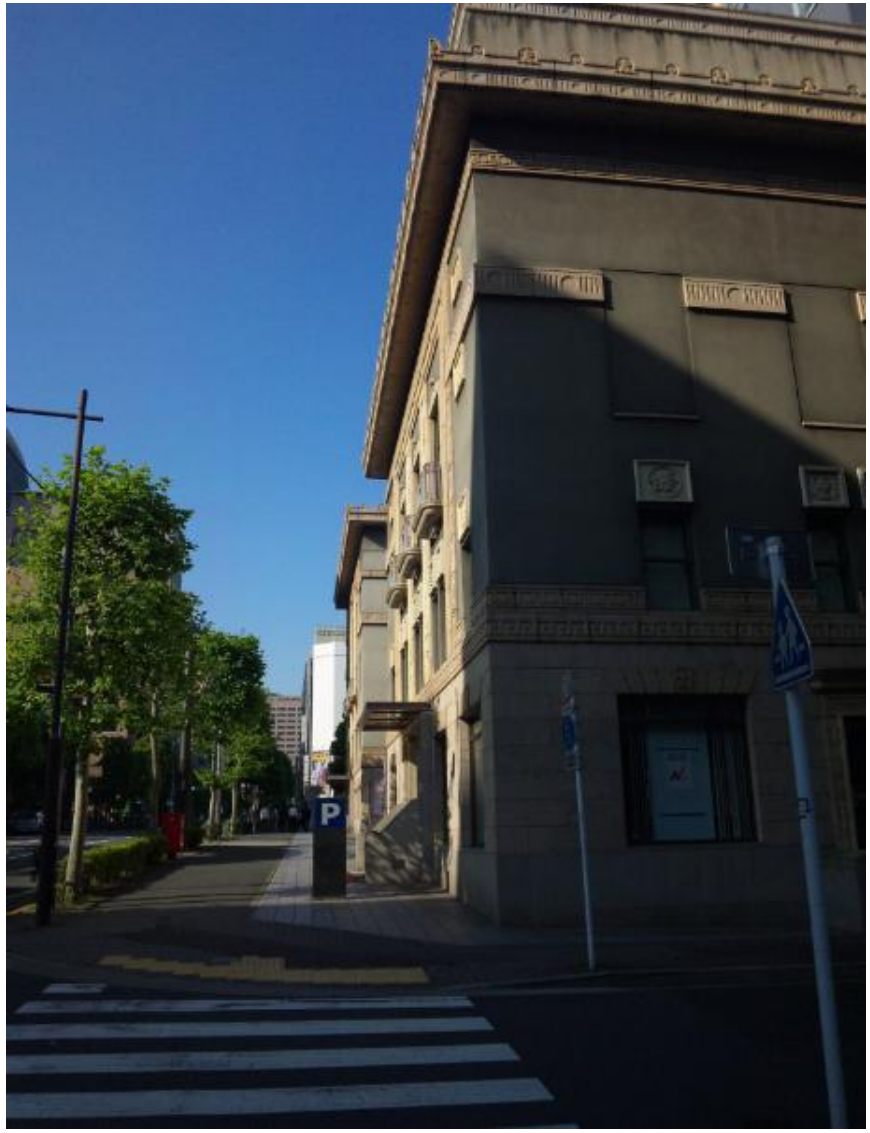
高層部は筑波センタービルと同型（ポストモダニズム）



左側面から見る

消火栓





P

カザルスホール（音楽ホール）のアプローチ

この建物をよもや壊さないでしょうね（鳩山某）